

「観柿会(かんしかい)」を開催！

柿衛文庫ゆかりの台柿を愛でる一日

2026年11月3日(火祝) 午後2時から、市立伊丹ミュージアムにおいて「観柿会」を開催します。

今年は、ゲストに正岡子規研究所主宰で樹木医の正岡 明氏を迎え、「柿、子規、そして正岡家」と題して柿衛文庫理事長の坪内稔典と対談を行います。台柿が見ごろの季節に、是非ご来館ください。



正岡 明(まさおか あきら)氏 プロフィール

1945年、兵庫県伊丹市に生まれ、1989年、奈良に転居。父・忠三郎は子規のいとこにあたり、正岡家を継ぐ。六甲学院を経て、同志社大学工学部卒業。㈱椿本チエイン機会設計部勤務。荒木造園に勤務後、自営(造園設計・樹木医)。2000年、正岡子規研究所設立。2006年、㈱国民みらい出版と契約。詩歌・アート等の評論執筆・講演・俳句選者・イベント企画等に従事。2023年、『手紙からみた明治の群像 子規の叔父加藤拓川と日露戦争の時代』を雄山閣より出版。

日 時：2026年11月3日(火祝)

開場 13時30分 開演 14時 終演 15時30分(予定)

会 場：市立伊丹ミュージアム 1階 講座室

聴 講 料：一般1,500円、大高生1,000円

定 員：50名(要申込・先着順)

申込受付：2026年10月3日(土)10時より

お電話(072-772-5959)または当館総合案内窓口へ

※「観柿会」とは

柿衛文庫の創設者である岡田柿衛翁は、頼山陽ら文人たちが愛でた岡田家ゆかりの台柿を大切に守ってきました。そして、この台柿を身近な方や伊丹市民にも愛でてもらうと、昭和27年(1952)から「観柿会」を始めました。

当館では、柿衛翁の台柿を愛でる心を継承して、毎年11月3日の文化の日に「観柿会」を開催しています。



【柿衛文庫ゆかりの台柿】

伊丹地方原産と推定される「菊平(きくひら)」という品種の渋柿。へたを下向きに置くと底部に台(うてな)があり、台の上に柿の実がのっているように見えるので「台柿(だいがき)」と呼ばれます。

現在は、市立伊丹ミュージアムの「俳諧・俳句ひろば」に彫刻作品となった1世の台柿、同ミュージアムの庭園に2世の台柿が1本、2世から接ぎ木した3世の台柿が2本植わっており、伊丹の歴史と文化を伝える語り部として、大切に守られています。

<お問い合わせ先>

担当：市立伊丹ミュージアム 加藤有果子

代表：TEL.072-772-5959/Fax.072-772-5558

直通：TEL.072-772-7447/Fax.072-781-9090

Mail:katou@kakimori.jp